

La Confiance

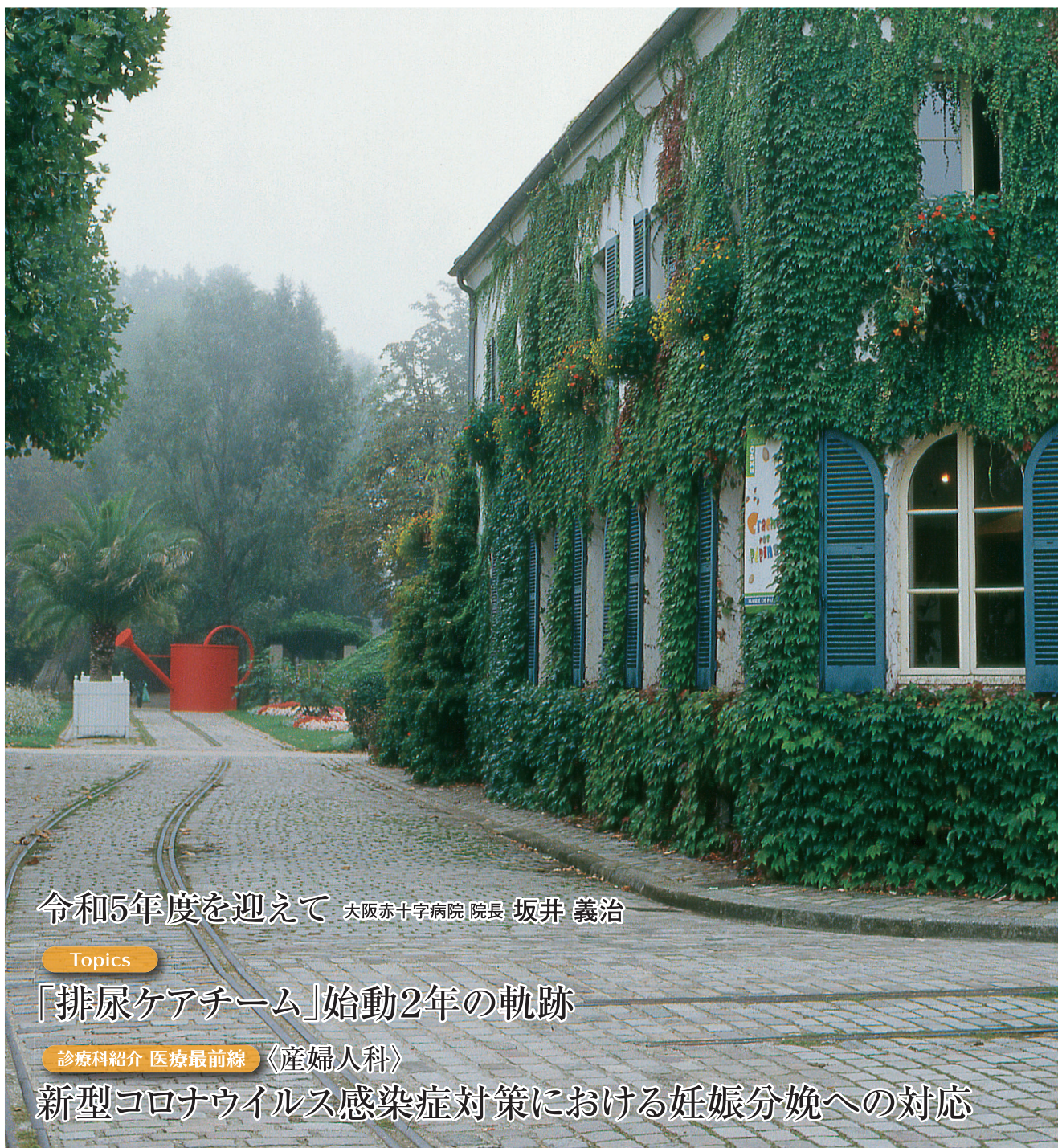
ラ・コンフィアンス

大阪赤十字病院 患者総合支援センターだより

Confiance (コンフィアンス)とは、フランス語で「信頼、信用」を意味します。

vol.39

2023年 春号



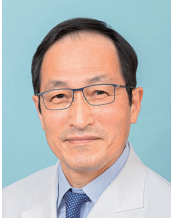
令和5年度を迎えて 大阪赤十字病院 院長 坂井 義治

Topics

「排尿ケアチーム」始動2年の軌跡

診療科紹介 医療最前線 〈産婦人科〉

新型コロナウイルス感染症対策における妊娠分娩への対応



令和5年度を迎えて

大阪赤十字病院 院長 坂井 義治

日頃より当院へ多大なご支援をいただき、心より御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症も5月の連休明けからは第5類へ移行することが決まりました。当院も行政からの指示に応じて、すでにコロナ病床を縮小するとともに、面会制限も徐々に緩和しています。術前のPCR検査も5月からは唾液の抗原定量検査に変更の予定です。

さて、当院は昨年度より新たな中期計画として、1)スリム化、2)高機能化、3)情報発信 を掲げています。1)は少子高齢化に伴う地域病床機能再編への対応であり、昨年4月に急性期55床を削減しました。2)の対応としては、昨年5月に2台目の手術支援ロボットを導入し、12月末にハイブリッド手術室を竣工しました。今年度から、より高度な血管内治療の提供が可能となりました。さらに今年度はSCUの増床とHCUの新設、それに伴う急性期26床の削減を計画しています。こうした病床再編により、救命救急センターでの患者応需がよりスムーズになることを期待しています。3)への対応として、ホームページ上での市民公開講座の継続と、新たにSNS(ラインやInstagram)を使って院内の活動を発信しています。これからも皆さまのご支援をいただきながら地域医療に貢献したいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

Topics

「排尿ケアチーム」始動2年の軌跡



▲当院の「排尿ケアチーム」

●診療報酬改定と「排尿ケアチーム」発足までの経緯

2016年から「排尿ケアチーム」の設立を含めた包括的排尿ケアが保険収載されました。高齢者の退院時歩行不能となる原因として、尿道カテーテル留置によるベッド上生活の影響が報告されています。そのため急性期治療後は速やかに尿道カテーテル抜去を行い、その後の排尿自立に取り組むことが必要です。加えて尿道カテーテル留置中の転倒や尿道損傷など医療安全の観点からも早期抜去が望まれます。これらの背景から当院では2021年に新たに「排尿ケアチーム」を結成し、始動しました。

●排尿ケアチームとは

今、さまざまな病院で「排尿自立」へのアプローチが始まっています。これは患者さんが自力で排尿管理ができるように、医師・看護師・理学療法士または作業療法士がチームを組んで支援することです。排尿が自立し、ベッドからの離床が促され、日常生活が自立すれば、患者さんの生活は拡大されQOLも向上します。特に高齢者の自立が促されることは、高齢者医療のめざすべき方向です。当院でも泌尿器科医、看護師(病棟、外来、皮膚・排泄ケア認定看護師)、理学療法士の多職種により構成しています。入院中の排尿障害がある、または予測される患者に対し、「排尿ケア回診」を行っています。また、チーム回診以外にも泌尿器科診察で随時支援を行っています。退院後にも排尿への支援が必要



▶排尿ケアチーム回診の様子:排尿日誌や排尿状況を情報共有アセスメントし排尿管理方法を検討

な患者さんには、泌尿器科受診時に問題解決に取り組んでいます。最近では後方支援病院や在宅、施設と連携をとり「包括的排尿管理計画」が継続できるよう検討中です。

●「排尿ケアチーム」の対象患者と相談・介入内容

全診療科の入院患者さんが対象です。チーム活動開始直後は、前立腺手術後の尿失禁に対するセルフケア指導と脳神経内科・外科の神経因性膀胱が中心でしたが、最近では外科、整形外科等の術後の神経因性膀胱による尿閉、尿道留置カテーテルの離脱に向けた計画などの介入が増えてきました。介入内容としては、排尿日誌の記載、残尿測定、導尿回数の提案、薬物療法などを主に行っています。

■診療科別チーム介入依頼数と変化

	2021年	2022年		2021年	2022年		
泌尿器科	84	99	↗	血液内科	2	4	↗
脳神経内科	27	25	↘	心臓血管外科	2	5	↗
脳神経外科	23	27	↗	腎臓内科	2	6	↗
整形外科	11	18	↗	救急科	3	3	
循環器内科	10	14	↗	乳腺外科	1	1	
消化器外科	8	27	↗	リウマチ・膠原病内科	1	1	
皮膚科	6	1	↘	小児科	0	1	↗
呼吸器内科	5	7	↗	糖尿病・内分泌内科	0	4	↗
形成外科	5	9	↗	緩和ケア科	0	2	↗
精神神経科	4	8	↗	産婦人科	0	3	↗
消化器内科	3	3		口腔外科	0	1	↗

●今後の連携に

「排尿ケアチーム」発足から2年が経過し、排尿自立へのアプローチが活発になってきました。しかし、急性期病院での短い入院期間内に排尿管理の問題解決には至らず、今以上に地域の医療機関を含めた包括的排尿ケアの継続が重要です。地域の泌尿器科および泌尿器科以外の医療機関との連携において、地域で暮らす高齢者の排尿自立を充実させ、「安全、生活の質、寝たきり予防」に、ともに取り組みたいと考えています。泌尿器科医が不在の医療機関などでは、ぜひ当院「排尿チーム」にご相談ください。

新型コロナウイルス感染症対策 における妊娠分娩への対応

“Covid-19”パンデミックを越え ウイズコロナ時代へ

3年前のCovid-19のパンデミックに伴い、医療現場では対応のため、さまざまな制約がなされ、医療者のみならず受診される方にも大きな負担を強いることとなりました。その後、何回かの流行の波を越えて弱毒株が主流となり、マスク着用などの規制も緩和、5類感染症としてウイズコロナ時代へと移り変わろうとしています。病院の対策もまた状況に応じて変更されてきており、職員でもその時々の方針をきちんと理解しておくのは困難なほどです。ましてや外部に対しては新旧の情報が整理されておらず、正しく伝わっていないこともあることを危惧します。そこで今回は、特に妊娠分娩について、Covid-19のパンデミックになって当院産科がとった方策と、その後の変更を含めた現状を述べさせていただきます。

▼初回受診方法など

当院は従来産婦人科の物理的制約から分娩数に制限があり、予約制としていました。そして妊娠分娩の継続的保健指導の必要性に鑑み、里帰り出産予定の方でも、分娩予約のためには本人が一度実際に受診することを条件としていました。しかし緊急事態宣言が出され移動の自粛に応じて、大阪に来ても当院受診は2週間の待機後としたので、分娩予約のため職場を2週間離れるというような負担をかけることになりました。

この2週間待機の方針は、国の移動制限がなくなり運用中止となっていました。当院ホームページでは2022年12月に至るまで削除しておらず、せっかく当院での分娩を希望されたのに断念した方がおられたらと思うと、申し訳なく感じています。

また、外来では両親学級を中止としました。

▼分娩入院

分娩にあたって入院する際については、病院としての入院患者本人以外の病棟への立ち入り禁止が産科病棟にも適用されました。陣痛時に夫婦で一緒に過ごしたり、夫に分娩に立ち会ってもらうことは、単にサービスの要素にとどまらず、分娩を順調に導く意味（ドゥーラ効果）があります。そのためにも当院の分娩室はLDR（陣痛、分娩、回復を一部屋で行う仕組みで家族と過ごせる）設備なのですが、そこで産婦一人で過ごしていただくことになってしまいました。

またパンデミックが始まった当初は、感染が致命的になることも多く、医療者にも“自分への感染を防ぎたい”ということがありました。陣痛・分娩時の呼吸法では長時間の飛沫放出があり危険なため、産婦人科関係団体もコロナ陽性産婦に対して、医療者への感染を防ぐための帝王切開を容認しました。当院も分娩室には陰圧設備がないため、帝王切開の方針としました。幸いどの妊婦さんもその方針を外来の健診時に説明すると、仕方が

Profile

産婦人科主任部長 野々垣 多加史



1984年京都大学医学部卒業。1995年京都大学博士（医学）取得。京都大学医学部附属病院研修医、いくつかの関連病院勤務を経て1997年国立姫路病院婦人科医長、2001年高松赤十字病院第一産婦人科部長、2014年大阪赤十字病院産婦人科部長、2019年同主任部長。
【資格】母体保護法指定医、産婦人科専門医、同指導医

ないこととして承諾をいただきましたが、常々自然経膈分娩を理想としている現場のスタッフにとっては医療者の都合で帝王切開をするのは心苦しいところでした。

しかし2022年4月に至り、予備の分娩室でもある子宮鏡などを行う処置室を、陰圧に改装してゾーンニングをしっかりと行いました。よって産婦が新型コロナウイルス感染症に感染していても、ここで経膈分娩が行えるようになりました。

▼検査

大阪産婦人科医会によると、感染を疑わない産婦に対して、全例PCR検査をした場合の偽陽性率から換算すると、大阪府内で年に60例以上が不要な帝王切開を行うこととなります。そのことから全例検査に反対との立場に賛同し、当院では全例検査を当初から行っていません。代わりに誰もが感染者の可能性のあるものとして、煩わしくても分娩室ではフルPPEで対応していました。

▼面会

家族の入棟禁止により、健康な産婦さんの家族でも退院まで赤ちゃんに会うことができずでした。これによる父子関係確立への悪影響も考慮し、当院感染対策部門より例外として認めてもらい、2022年1月より分娩後に1回15分、父親の面会を許可しています。

▼ウイズコロナ時代へ

～4月、立ち会い分娩・両親学級を再開～

コロナ禍でも立会い分娩を制限していない施設もあり、当院でも健診中の妊婦さんから「本当は日赤で産みたいけれど、いまだ立会いできないのなら他に紹介してほしい。」ということが散見されていました。当院を受診せず他施設を選択せざるを得なかった方はもっとおられると懸念しています。ですが、いよいよ2023年4月から立ち会い分娩を再開します。分娩を取り扱う助産師、医師はフルPPEでの対応を継続しますが、今後産婦さんや家族にはできるだけ制限を解除していく方針です。

同時に両親学級も4月から再開します。

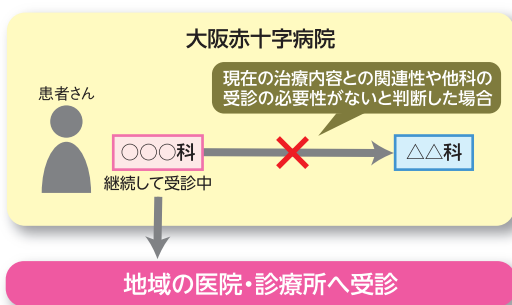
この3年間、社会も病院も、そして当科も、混乱が続く毎日でした。しかし、この経験により、ソフト面で知見も得られ、ハード面でも整えられました。現在の新型コロナウイルス感染症に対し、また、今後も必ず発生するであろう未来の感染症に対しても、当院がめざす『安心安全で満足できるお産』に向かって、取り組んでまいります。

ご承知おきください！ 「院内紹介の取り扱いについて」

2022年の診療報酬改定において、紹介状なしで受診する場合の定額負担の見直しが行われました(2022年10月から適用)。病院に通院中であっても他の診療科からの院内紹介がない受診には選定療養費がかかることになります。

当院では、この改定に基づき外来機能の明確化の観点から、継続して当院を受診されている患者さんから他科受診のご要望をいただいた場合であっても、現在の治療内容との関連性や患者さんの病状等を踏まえ、直接当院の他科を受診する必要性がないと判断した場合は、院内紹介を行わないこととしています。患者さんには近隣の医院・診療所(かかりつけ医)を受診していただくようお願いしています。

地域の医療機関の先生方にはご理解・ご協力いただきますようお願いいたします。



ぜひ、ご登録ください！

医療機関向け LINE, Facebook公式アカウント

地域の医療機関の先生方に、当院のトピックスやセミナー・講演会のご案内など、医療連携に関わる情報をお送りしています。

「友だち登録」はこちらから

フォローはこちらから



日赤オンライン医学講座

地域の先生方や一般市民の皆さま向けにオンラインでの医学講座を行っています。申込不要でお好きな時間にご視聴いただける10~20分程度のミニ講座です。

● 当院ホームページから視聴できます。

● YouTubeによる動画配信

(公開より1年間視聴できます。)

月に2回、原則毎月1日・15日に新規動画を配信。

※ 休日の場合は翌開庁日です。

ぜひ、ご覧ください！

https://www.youtube.com/playlist?list=PLO0syUBOnjakeNHmZol7BsrNmCE3g_S8



人事異動紹介

(2023.4.1付)

新任・昇任の部長・副部長

昇任



副院長
おおにし ひろゆき
大西 裕之

昇任



循環器内科
部長
はやし ふじお
林 富士男

新任



心臓血管外科
副部長
さかぐち ひさし
阪口 仁寿

新任



産婦人科
副部長
いわみ しゅういちろう
岩見 州一郎

新任



泌尿器科
副部長
しみず ようすけ
清水 洋祐

昇任



消化器外科
副部長
やまぐち だいすけ
八木 大介

昇任



消化器外科
副部長
いなもと すずむ
稲本 将

昇任



産婦人科
副部長
なかがわ えりこ
中川 江里子

昇任



耳鼻咽喉科・頭頸部外科
副部長
わたなべ よしき
渡邊 佳紀

昇任



麻酔科・集中治療部
副部長
おかもと あきひさ
岡本 明久



患者さんの紹介手順

1 紹介状(診察・検査申込依頼書)に必要な事項をご記入の上、FAX(24時間対応)にて送信してください。記入事項をもとにカルテを作成しますので、内容は正確にご記入ください。

● 紹介状は、当院専用の様式(書式はPDFとWord)があります。お電話いただければ専用の封筒とともに郵送させていただきます。

医療連携課 直通 TEL:06-6774-5127

● または、当院ホームページからダウンロードできます。

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

※ 紹介状は、当院専用のものでなくても結構です。

2 受付後、ご来院の日時を設定し、折り返し予約通知書を迅速にFAXにて返信いたします。ただし、17:00以降の受付分は、受付開始後にできるだけ早くお返事をいたします(診療科によっては返事に時間がかかるものがあります。)患者さんに、封筒に入れた紹介状(診察・検査申込依頼書)と、当院から送信された予約通知書をお渡しください。

3 患者さんをご紹介いただく際、CT・MRIなどの画像データがございましたら、お手数ですがご提供をお願いいたします(画像データのご持参忘れや窓口でお出し忘れになるケースがあり、患者さんに取りにお戻りいただいたり、初診日が診察のみで終わってしまったりするなど、ご不便をおかけすることがあります)。

発行

大阪赤十字病院 医療連携課

大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-30

<https://www.osaka-med.jrc.or.jp>

2023年4月発行

■ 医療連携課のご案内

受付時間/平日8:30~20:00、土曜8:30~13:00

休診日/日曜・祝日、12月29日~1月3日(年末年始)、5月1日(本社創立記念日)

連絡先/(医療連携課 直通) TEL:06-6774-5127

FAX:06-6774-5126